

# みどりのまちづくり

公益財団法人河内長野市公園緑化協会

平成 25 年 7 月

N o . 1 3 3



写真:ピンクの花を咲かせるサルスベリ(寺ヶ池公園)

ミモザの苗づくり .....	2
協働によるみどりづくり～美加の台でのチャレンジ～PART2 .....	4
いろいろな植物を知る－PART5－ .....	6
家庭園芸の害虫駆除 .....	7
編集後記 .....	9

---

## ミモザの苗づくり

---

前回、寺ヶ池公園にミモザの苗を植付けたことを紹介しました。来春には、満開とはいえなくても、ある程度の開花が望めます。そして花が咲けば、なかには枝を切り取ったり、木を引っこ抜いたりして持ち帰る人が現れるかもしれません。美しい花を見れば誰もが欲しくなりますから。切ったり、抜いたりされないように、持ち帰り用の苗を育ておくことが必要だと考えられます。また、苗を育てておけば、緑化や家庭園芸の推進素材としても活用できるでしょう。というわけで、ミモザの苗づくりを始めることにしました。

書物によりますと、ミモザは挿し木が難しく、種を播いて育てる植物です。たくさんの種を入手しようと思えば、開花した木に実るものを集めるのが手っ取り早い方法ですので、ミモザの花が見られる3～4月に、市内の各所で開花しているミモザを探し回りました。そして、美加の台や南花台、千代田台、日東町、小塩町などに1～3か所ずつミモザの木を見つけました。それらの木に実がつけば、頼み込んで種を分けてもらおうとの意図からで、ちょうど寺ヶ池公園にミモザの苗を植付けてもらった前後の時期でした。すなわち、この時からミモザの苗づくりの取り組みが始まっていたといえましょう。

4月を過ぎてミモザの花が咲き終わり、茶色くなった時、前に見つけておいた場所を回って見るといくつかの木はきれいに剪定されていました。花あとが汚いので整理されたのでしょうか、これでは実はありません。これは大変、人頼りはやはりだめかと思いきや、残った木は6月に入っても剪定されませんでした。きっと植えておられる人が、植木の剪定時期は6月中ごろから7月だと理解されておられるのでしょう。5月になると、小さな豆のさやがたくさんなり、6月になるとこれが10センチほどに育ってきました。意を決して、寺ヶ池公園にほど近い千代田台の家庭を突



然訪れ、ミモザの種をいただけるようお願いしたところ、快諾を受け、さやをたくさんいただきました。早速協会事務所に持ち帰り、さやから種を出しました。ちょうどエンドウをむくような作業ですが、さやは薄っぺらくて途中にくびれがある点と、種は黒くて細長く小さい点が異なりますが、20ccほどの種を集めました。でも、もう少し種が多いほうがいいなというわけ

で、大矢船のご家庭にも無理を言い、2  
デシリットルほどの種をいただきました。

このようにたくさんの種を集めたのは、  
ミモザの種には硬実種子が含まれてい  
て、種を播いても一度にたくさん揃って  
生えずに、何年もの間隔をおいてパラパ  
ラと生えてくる性質を持っているからで  
す。種の皮に水を通すものとそうでない  
ものがある、一度に全部の種が発芽し  
てしまわないように調節しているからで  
す。サバンナやステップといった乾燥地  
に生える植物の種が、ごくまれにしか降  
らない一度の雨で全て発芽すると、その  
後乾燥が続いた場合に全滅する恐れが  
高いため、何度かの雨と乾燥の後に発  
芽するか、今年ではなくて来年、3年  
後、あるいはもっとのちに発芽するとい  
う性質を持っているからです。そして、こ  
のような種を播いて一度に生やしたいとき  
には、種を希硫酸に浸ける、熱湯に浸す  
などの処理をすることが広く行われています。ハサミやヤスリで種の皮に傷をつける操作も有効  
ですが、ある程度大きな種でなければ作業し辛いでしょ。

というわけで、ミモザの種を100粒ずつ数え、処理しないで播く、ハサミで傷をつけて播く、熱  
湯に30秒浸してから播く、同様に45秒、1分、2分、3分、5分浸してから播いてみました。結果、  
最も早く発芽したのは傷をつけて播いたもので 1 週間後より発芽し始め、次に3分、5分熱湯に  
浸けたものでした。熱湯に浸けたものはいずれも多かれ少なかれ発芽しましたが、何もせずに  
播いたものは種播きから1か月経過してもまったく発芽しませんでした。したがって、今後ミモザ  
の種を播くときには、少しだけ播く場合にはハサミで傷を付け、たくさん播く場合にはたねを熱  
湯に3～5分浸すこととしました。現在、傷をつけて発芽させた苗を育成中ですが、この暑さで幼  
苗が枯れないかと不安いっぱいです。ダメなときは9月に熱湯に浸けて播くこととしましょう。

ところで、ミモザのさやをむいて種を出したり、小さな種の端をハサミで切ったりする操作は、  
実に単純な作業でした。そんな時考えたのは、種は子ども、さやは親の一部で、たねの皮に水  
を通すことに違いがあるのは、子が関与した性質なのか、親が関与した性質なのかということだ  
でした。子が関与した性質であれば遺伝的な性質ということになりますが、この場合には数年ミモ  
ザの発芽に良い気候が続いただけで早く生えるものが極端に増えて遅く生えるものを圧倒して



▲ミモザのさや(写真上)と取り出した種(同下)



しまい、硬実種子はなくなってしまうでしょう。

どうやら、ミモザの発芽に影響を与えているのは親のほうで、親から子への養分供給の差異による種の皮の厚さや種の皮の脂質、繊維の状態の変化によるものと考えられます。写真のように、ミモザのさやは途中でくびれ、この先に付いている種には小さいものが多く見られました。そこで、仮に、さやが立派に育ったもので、種が8個入っているさやを 100 個集め、種を1つずつ出しながら、さやの付け根に近いものから先端のものへと並べ、一番手前のものを 100 個、2番目に手前のものを 100 個というように、それぞれの位置のものを 100 個ずつ播くと、手前のものは発芽が早いとか、先端のものは発芽が良いとか悪いとかが判り、たねの付くさやの部位によって、言いかえれば親の部位によって子の性質が異なるという、興味深い結果が分かるでしょう。

大変おもしろい課題ですが、結果が出るまでに何年もかかります。どなたか一度取り組んでみませんか。といっても、きっとすべての種が発芽を終えるまでの間に、種を播いた箱や土も変質してしまって発芽に影響を及ぼし、考察を一層困難なものたせてしまうでしょうが。

(理事長 大江正温)

---

## 協働によるみどりづくり～美加の台でのチャレンジ～PART2

---

美加の台第 10 号緑地での協働による「みどりの回復」事業を前号で報告しましたが、その後の「美加の台植樹委員会」を中心とした 5 者協議会の活動報告です。



▲カマの使い方を説明する奥野さん

3月 23 日(土)に植樹された 120 本のサクラは、その後の適度の降水量にも恵まれ、意識的な灌水もしないで 2 か月が経過した 5 月末の時点では、2～3本が枯れただけで、大半の苗木が新芽を出して活着した模様です。

しかしながら、緑地での雑草の繁茂が日ごとに目立つようになってくると、若木の生育にも影響が出るのではということで、美加の台植樹委員会としても、夏場を乗り切るために、6月から9月末までの4か月間の毎週土曜日の午前中に、サクラ周辺の草刈りカマによる除草と、適宜の灌水により苗木の成長を見守っていくこととなりました。

まず、初日の6月1日(土)には、5者協議会の一員であり、2月のパネルディスカッションのパネラーとして協力をいただきました大阪府森林組合・副組合長の奥野さんを

講師に迎え、山林経営で培ったカマによる除草技術のポイントを教示していただきました。

何といても、カマは、扱いを間違えば危険な凶器ともなりますので、安全第一の扱い方の基本を解りやすく、実演もまじえて講義いただきました。その後、参加者全員で手分けしてサクラ周辺をカマによる手作業での草刈り(坪刈というそうです)を実施しました。作業後には、カマの砥石による研磨方法まで伝授していただきました。

また、この日は、昨年夏期に実施した当協会の挿し木教室で、各自持ち帰って育てていただきましたアジサイやサツキ類の苗木を持ち寄り、緑地の最上部の比較的管理しやすい場所に移

植し、これらの苗が一定植樹に適するまで、共同管理により育苗していくこととしました。まさに、自分たちで育てた苗が、今後の緑化推進の核となるもので、一層の愛着が湧くものと期待するところです。

このように、地域住民の大きな負担にならない程度での緑化推進活動は、今後、同様の緑地を持つ他地域へのモデルとして先導できるよう、5者協議会でのさらなる発展へとつながればと思っています。

(公園緑化協会常務理事 山田彰男)



▲カマを使って草刈りを実践



▲挿し木の苗がさらに成長するよう育てます



## いろいろな植物を知る -PART5-

「いろいろな植物を知る」と題しまして寺ヶ池公園の植物をできるだけわかりやすく紹介してきましたが、今回で早くも5回目となりました。この記事を通じて、寺ヶ池公園には一般的な植物もあれば、意外と珍しいものもあるということにみなさんに気付いていただき、より一層花や緑に関心を持っていただくことを公園緑化協会職員の大事な目標と考えています。

さて、今回ご紹介するのは、通常5月から6月頃にかけて特徴的な大きな花を咲かせるタイサンボクです。タイサンボクは、別名をハクレンボクとも言い、各家庭で植えられるほか公園樹木や街路樹としても利用される樹木です。高さ 20メートルぐらいにもなるモクレン科の常緑高木で、ハクモクレン、コブシ、前にこちらで紹介しましたホオノキと同じ仲間です。漢字では「泰山木」あるいは「大山木」と表記し、そのイメージから原産国はハクモクレンやシモクレンと同様に中国と思われがちですが、実は北アメリカ原産の樹木です。

花芽は大きくて表面に薄い毛があるのに対し、葉芽は無毛です。一方、葉は長さが 10～25センチ、幅4～10センチの長楕円形で、花と同様に大きく、厚い革質で表面は光沢があり、裏面は褐色の毛が密生し見た目は錆びているように見えます。花は先に述べたように15～25センチと大輪で、強い芳香のある白花が枝の先に着きます。

栽培方法について述べますと、植付場所は樹高が高くなり横枝も張るため広い場所が必要で、日当たりのよい場所であれば、旺盛に生育し花もよく咲かせます。土壌は特に選びませんが、極端に乾燥せず腐植質に富んだものが適しています。タイサンボクの根は粗く細根が少ないので、移植には適しておらず、将来の大きさを考えて植付場所を考えることが必要です。



▲タイサンボクは光沢のある葉が特徴

水やりは、植えつけからしばらくの間は土が乾いたら与えますが、根付いたその後は必要ありません。肥料は、5月の成長期に緩効性肥料を、1月の休眠期に油粕を施します。剪定は、モクレン類のなかでは枝数が少なく、こんもりとした樹形を楽しむので、基本的には行いませんが、枯れ枝や枝の途中から出て真上に勢いよく伸びる徒長枝は、適宜元から切り除きます。樹形を整えるための剪定は、開花後のなるべく早い時期に行います。

タイサンボクは、寺ヶ池公園に1本植えられているほか、清見台方面から来た美加の台の交差点を右に曲がった道路沿いの緑地に10本ほど連続して植えられています。近くを通られた際には、ぜひ見ていただきたいと思います。

(公園緑化協会 内本博樹)



▲花を咲かせると強い香りがします

---

## 家庭園芸の害虫駆除

---

庭で植物を育てていると、植物に害虫が発生して思うように育てられないことがあります。

葉でよく見かける毛虫や芋虫は、蝶や蛾の幼虫です。これらの虫は葉や芽を食べます。毛虫が植木に集団で発生した場合は、その木の葉が無くなる程ひどく加害されることもあります。例えば、9月頃に桜の木に黒い毛虫が発生してほとんど全部の葉を食い荒らされることがあります。



▲セイヨウツゲとツゲノメイカ

これは、モンクロシャチホコという蛾の幼虫です。また、セイヨウツゲにはツゲノメイカの幼虫がよく発生し、これも放っておくとほとんど全部の葉が食い荒らされます。この被害に遭ったセイヨウツゲは、時として枯れてしまうことがあります。

セイヨウツゲは、小さい葉をたくさん付ける低木です。マメツゲやイヌツゲよりも葉の色が明るく軽やかな印象ですので、洋風の庭によく合います。例えば、はやりのハナミズキと組み合わせるとしゃれた雰囲気になまぐさまとまります。少し刈り込んで樹形を整えれば美しい植え込みを作ることができますし、丈夫な木ですから、庭や商業施設や

公園の緑化木として魅力的です。ただ、うまく育てるには、ツゲノメイガの被害に注意する必要があります。4月頃からセイヨウツゲをよく見て、ツゲノメイガの幼虫が発生し始めたら、早期に駆除することで被害を低く抑えることができます。

アブラムシやハダニも、ご家庭の植木や花でよく見かけます。これらは、葉や芽に取り付いて植物の液を吸って害を与えます。アブラムシは小さいので、葉に付いていても気付かないことがよくあります。バラやウメの木の枝先にたくさんのアブラムシがびっしり付いているのを見かけることがあります。

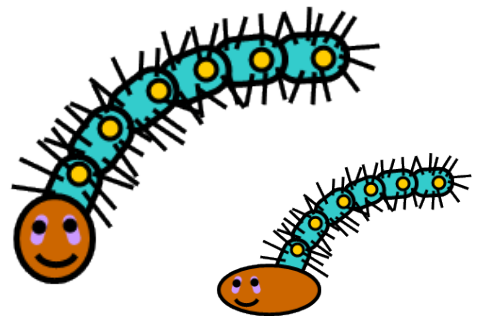
ハダニは、葉の裏に発生することが多く、また、かなり小さいのでこれも気付にくい虫です。害がひどくなって葉の色が薄く変色したり、クモの巣のようなものができたりすることで、初めてハダニの発生に気付くこともあります。ハダニは、観葉植物など室内の植物でもよく見かけます。

ご家庭の庭での害虫の発生は、たいていは庭の植物の全部に多量に発生するのではなく、例えば、モッコクの木にハマキムシが付いているというように、部分的な発生です。そのような場合は、発生した毛虫や芋虫を1匹ずつ捕まえて駆除する方法が簡単で確実です。チャドクガやイラガなど一部の毛虫は、触れると刺されてかぶれますので注意が必要ですが、それ以外は箸やゴム手袋を使ってサッと取ってしまえば済みます。

多量の発生や、多量でなくてもアブラムシなどの小さい虫の場合は1匹ずつ捕まえていられませんので、そのようなときは農薬による駆除が便利です。農薬は、園芸店やホームセンターで販売されています。いろいろな種類の農薬があるなかで、それらの農薬がどういう植物のどういう害虫に使えるのかは、それぞれの農薬の容器に書かれています。その表示を見て、合ったものをお選びください。少量のアブラムシの場合は、スプレー缶や霧吹きなどの噴霧できる容器に入ったタイプを選べば、それをサッと吹き掛けるだけで済みます。多量の毛虫の場合は、普通はスプレー缶や霧吹きではなく少し大きめの噴霧器を使って農薬を散布します。農薬と噴霧器があればこの作業はたいして難しくはないのですが、このような作業に慣れない方は無理をしてご自身で作業をするよりも、農薬散布を造園業者に依頼するほうが良いでしょう。

多量の毛虫に対しては、農薬を使用しても1匹残らずの完璧な駆除は非常に困難です。実害の無い程度にまで駆除できればそれで良しとしましょう。毛虫が少し残っていたとしても、毛虫の発生は季節的なものですから、しばらくすると毛虫はいなくなります。

(公園緑化協会 黒川正健)





## 編集後記

6月の定時評議員会を無事終了し、やっと名実ともに公益財団法人としてのスタート地点に立った思いです。大阪府内では、当協会のような公園管理等の受託事業を主たる公益目的事業として認定された最初の法人としての誇りを、当協会としても今後とも持ち続けたいものです。

さて、例年よりも相当に早い梅雨明けとそれに伴う猛暑は、地球温暖化と不可分の現象なのでしょう。熱中症対策としての冷房等の推奨は、原発再稼働への電力会社の動きとオーバーラップし、何よりも生命を大事にする視点でありながら、きちっと将来を見据えたものなのか、十分な議論を尽くしてほしいものです。

今月号は、シリーズものが中心となりました。3か月間隔の発行とは言え、少ないプロパー職員体制では、定期的な発行は結構厳しいものがあります。

4月発行予定の前号が5月中旬にずれ込んだため、今月号は出来るだけ遅れを取り戻そうと努力したもので、内容についてはご容赦をお願いいたします。

公益認定を受けた限り、今年度からは、当協会の当協会ならではの取り組みが求められており、それらの事業を早いうちに軌道に乗せる必要があります。

これらの取り組みは今年度の事業計画としても記載(当協会のホームページに事業計画を掲載)をしておりますが、「公園種別毎利活用促進事業」での基本構想の策定など、協会としては不慣れな取り組みばかりですので、市からのアドバイスを受けながら、一步ずつ進めていきたいと思っています。

(公園緑化協会常務理事 山田彰男)

### 公益財団法人河内長野市公園緑化協会

事務所 〒586-0094 河内長野市小山田町 674 番地の5

☎0721-56-1155/FAX 0721-56-2100

E-mail; contact@kawachinagano-park.or.jp HP; <http://kawachinagano-park.or.jp/index.html>

業務時間 午前9時～午後5時30分(土・日・祝日と年末年始を除く)